

農政の動き 2017年3月24日～3月29日

◇4～6月の平均気温 北・西日本で高く◇

気象庁は4～6月の3カ月予報を発表した。この期間の平均気温は北・西日本で高く、東日本は平年並みか高い。降水量は東日本太平洋側と西日本日本海側で平年並みか少ない。〈4月〉東日本太平洋側と西日本は平年に比べ晴れの日が多い。気温は北日本で平年並みか高く、降水量は東日本太平洋側と西日本で平年並みか少ない〈5月〉北日本と東日本太平洋側は天気は数日の周期で変わる。気温は北・東日本で平年並みか高い〈6月〉東日本太平洋側と西日本は平年と同様に曇りや雨の日が多い。気温は全国で平年並みか高い。(2017年3月24日)

◇農地転用許可権限 新たに6市町に付与◇

農林水産省は、新たに紫波町(岩手県)、高森町(長野県)、四日市市(三重県)、亀山市(同)、多気町(同)、広島市の6市町を、都道府県と同等の農地転用許可権限を持つ指定市町村に指定した。農相から都道府県に付与する4<sup>ヵ所</sup>以上の農地の転用許可権限を指定市町村にも与える措置で、指定総数は41市町(19道県)となった。(24日)

◇4～6月期の配合飼料価格 トン700円引き上げ◇

J A全農は、2017年4～6月期の配合飼料供給価格を、1～3月期に対し全国全畜種総平均でトン当たり約700円引き上げると発表した。引き上げは2期連続で、16年10～12月期比では約2650円の値上げ。トウモロコシや大豆かすの国際相場の値上がりや、円安傾向などを反映した。(24日)

◇17年度予算成立 農林水産は2兆7071億円◇

2017年度政府予算案が、参院本会議で自民公明などの賛成多数で可決、成立した。一般会計の歳出総額は97兆4547億円で、5年連続で過去最大を更新。農林水産関係の総額は、16年度当初予算比20億円減の2兆7071億円。(27日)

◇種子法廃止の動きに農家などから懸念の声◇

主要農作物種子法の廃止法案の国会審議が進む中、埼玉県の有機栽培農家・金子美登さんらが呼びかけ人となり、「日本の種子(たね)を守る会」が東京都内で開かれた。全国から約250人が参加。都道府県に稲、麦、大豆の種子の生産・普及を義務付けている同法の廃止により、種子の安定提供への影響などを懸念する声が上がった。講演した京都大学大学院の久野秀二教授は「種子は最も基礎的な農業資材」と強調し、慎重な審議の必要性を訴えた。(27日)

◇農業・食料関連の国内生産額 前年比4.1%増◇

農林水産省は、2015年の農業・食料関連産業の国内生産額(概算)は前年比4.1%増の111兆8479億円で発表した。うち農林漁業は12兆1974億円で、前年比では5.1%増えたが同産業全体に占める割合は10.9%にとどまる。(28日)

◇農水省が米粉の用途別基準を公表◇

農林水産省は、米粉の用途別基準を策定・公表した。でん粉損傷度やアミロース含有率などの成分に基づき、菓子・料理用を「1番」、パン用は「2番」、麺用は「3番」と表記し、米粉の利用拡大につなげるのがねらい。また、小麦アレルギーなどに対応したノングルテン表示ルールのガイドラインも策定。「グルテン」の含有量が検出限界値（1 ppm）未満の米粉製品のみ、強調表示可能とする。業界の統一基準として普及・定着を目指す。（29日）